

保育実習Ⅱにおける経験録(試案)

A Trial of Recording Experiences in Childcare Training Ⅱ

開 仁 志
Hitoshi HIRAKI

〈要旨〉

経験録は、学生自身が経験した内容をチェックリスト方式で確かめて振り返り、後の学びに生かしていくものである。学校での講義や演習というよりも、現場における実習において実際に経験した内容を確認し振り返るために使われることが多い。経験録は看護分野や福祉分野では活用されているが、保育分野での活用は少ない。筆者は、保育分野での経験録活用を目指し、これまで保育士養成の保育実習Ⅰにおける保育所実習の経験録(試案)と幼稚園教員養成の教育実習に関する経験録(試案)について作成した。

その成果を踏まえ、本研究では、保育士養成の保育実習Ⅱにおける保育所実習の経験録の試案を作成し、学生の実習経験に関する振り返りを促すことを目指した。方法としては、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長による通知、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」で示された教科目の教授内容、『実習生のための自己評価チェックリスト第2版』(2011)などを基に経験録(試案)を作成した。今後は、実際の保育実習Ⅱにおいての振り返りに使用し、経験録の項目についてその妥当性を検証する必要がある。

〈キーワード〉

保育所 保育実習Ⅱ 経験録 振り返り

1 問題

経験録は、学生自身が経験した内容をチェックリスト方式で確かめて振り返り、後の学びに生かしていくものである。学校での講義や演習というよりも、現場における実習において実際に経験した内容を確認し振り返るために使われることが多い。

経験録は看護分野や福祉分野では活用されている。例えば、看護師養成では、杉本ら(2006)の「基本的な看護技術の水準」における経験度からみた看護技術演習の検討⁽¹⁾、郡司ら(2006)の成人看護学実習における看護基本技術の経験状況を把握するための経験録の分析⁽²⁾、成田ら(2007)の母性看護学実習における母性看護技術の経験状況把握⁽³⁾、荒川ら(2009)の基礎看護技術実習における看護技術の経験の実態把握⁽⁴⁾などがある。

介護福祉士養成では、井上ら(2013)の経験録の技術項目の細目と到達レベルの再検討などがある⁽⁵⁾。

この経験録を保育分野に応用することで、看護師養成、介護福祉士養成におけるように、実習の振り返りを後の学びに生かす一助となると考えられる。

しかし、保育分野での活用は少ないため、筆者は、保育

分野での経験録活用を目指し、これまで保育士養成の保育実習Ⅰにおける保育所実習の経験録(試案)⁽⁶⁾(以下保育実習Ⅰ経験録(試案))と幼稚園教員養成の教育実習に関する経験録(試案)⁽⁷⁾(以下幼児教育実習経験録(試案))について作成した。

保育実習Ⅰ経験録(試案)については、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長による通知、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」で示された教科目の教授内容⁽⁸⁾(以下教授内容)、『実習生のための自己評価チェックリスト第2版』(2011)⁽⁹⁾(以下チェックリスト)などを基に作成した。

幼児教育実習経験録(試案)については、幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書(2002)「幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために—」⁽¹⁰⁾と、全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」⁽¹¹⁾、チェックリスト、保育実習Ⅰ経験録(試案)を基に作成した。

保育実習Ⅰ経験録(試案)は、保育士養成における必修科目「保育実習指導Ⅰ」で使用することを想定し、「保育実習Ⅰ」の中の「保育所実習(2単位)」での経験内容を

振り返るものである。また、幼児教育実習経験録（試案）は、幼稚園教員養成の教育実習での経験内容を事後指導において振り返るためのものである。

本研究では、保育士養成における選択必修科目「保育実習指導Ⅱ」で使用することを想定した「保育実習Ⅱ」（保育所実習（2単位））での経験を振り返るための経験録（試案）（以下保育実習Ⅱ経験録（試案））を新たに作成する。そのことで、0歳児から5歳児までを対象とした保育実習及び教育実習における経験を振り返る経験録（試案）がそろることになり、保育士及び幼稚園教員養成の質向上の一助となると考える。

2 目的

保育士養成の保育実習Ⅱにおける経験内容を確認し振り返りを促すための「保育実習Ⅱ経験録（試案）」を検討し作成することを目的とする。

3 方法

看護師養成、介護福祉士養成における経験録を基に作成した保育実習Ⅰ経験録（試案）の考え方を基に、保育実習Ⅱ経験録（試案）を作成する。

看護師養成、介護福祉士養成では、卒業時の到達目標が示されているが、保育士の卒業時の到達目標は必ずしも明示されていない。

そこで、本研究では、教授内容を到達目標として扱い、経験録の大項目・中項目を設定する。

小項目については、保育実習Ⅰ経験録（試案）、チェックリスト、幼児教育実習経験録（試案）を参考にして項目を設定する。

4 結果

4-1 経験録作成

保育分野における経験録の考え方は、以下のとおりである¹²⁾。

オリエンテーション項目と保育技術に関する項目に分かれ、到達目標を「説明」「見学」「経験」の3つに区分し、段階を踏まえて習得する。

- (1) 説明 指導者あるいは担当職員からそれぞれの項目について説明を受け、理解できた。
- (2) 見学 指導者あるいは担当職員の説明を受け、実践を意図的に見学した。
- (3) 経験 説明、見学を踏まえた上で自分で
 - A 指導者あるいは担当職員と共に実践した。
 - B 指導者あるいは担当職員の確認のもと一人で実践した。

実習生は、毎日実習中に体験した項目について「説明」「見学」「経験」のうち該当するものを自分で判断し、○印を記入する。※印は必ずしも実施しなくてもよいが、可能であれば適宜実施してもよい項目である。少なくとも1週間に1回は点検を受け、実習最終日には指導者に提出し、確認印を受ける。

4-2 大項目・中項目の設定

教授内容で「内容」として示された大項目¹³⁾を保育実習Ⅱ経験録（試案）の大項目にして、教授内容のうち小項目¹⁴⁾を保育実習Ⅱ経験録（試案）の中項目とする。以下に示した（ ）数字は保育実習Ⅱ経験録（試案）の大項目、○数字は中項目である。教授内容のうち、大項目「(6)自己の課題の明確化」についての小項目が設定されていないため¹⁵⁾、対応する保育実習Ⅱ経験録（試案）の中項目「①省察・自己評価」「②カンファレンス」を筆者により設けた。

- (1) 保育所の役割や機能の具体的展開
 - ①養護と教育が一体となって行われる保育
 - ②保育所の社会的役割と責任
- (2) 観察に基づく保育理解
 - ①子どもの心身の状態や活動の観察
 - ②保育士等の動きや実践の観察
 - ③保育所の生活の流れや展開の把握
- (3) 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - ①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
 - ②入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
 - ③地域社会との連携
- (4) 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
 - ①保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
 - ②作成した指導計画に基づく保育実践と評価
- (5) 保育士の業務と職業倫理
 - ①多様な保育の展開と保育士の業務
 - ②多様な保育の展開と保育士の職業倫理
- (6) 自己の課題の明確化
 - ①省察・自己評価
 - ②カンファレンス

4-3 小項目の設定

保育実習Ⅰ経験録（試案）及びチェックリストを参考にして、保育実習Ⅱ経験録（試案）の中項目に対応した小項目を設定する。なお、(7)と(8)の中項目に関しては、チェッ

クリストで扱われていない部分について、幼児教育実習経験録（試案）を参考にして小項目を設定した。

(1)「養護と教育が一体となって行われる保育」に関する小項目

①社会的ルール（きまり）を身につけるような働きかけ、
②遊びのルール（きまり）を子どもたちが自らつくっていく過程の保障、③ケンカを子どもたちで解決できるような配慮、④人の立場を考えながら行動する大切さの伝達、⑤当番活動などへの意欲の尊重、⑥率先して子どもと遊ぶ努力、⑦一人ひとりへの声かけ、⑧一人ひとりの話の傾聴、⑨一人ひとりとの会話、⑩自分の意見を言うことのできる雰囲気づくり、⑪他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるような雰囲気づくり、⑫子どもたちの顔を見ながら弾いたり歌ったりする努力、⑬自由に歌ったり踊ったりできるような配慮、⑭様々な楽器を楽しめるような工夫、⑮表現したのを見たり、話をしたりできるような配慮、⑯子どもとのイメージの共有、⑰得意な方法で表現できるような働きかけ、⑱友達と一緒に表現することの喜びを味わえるような配慮

(2)「保育所の社会的役割と責任」に関する小項目

①保育所保育指針の理解と保育の展開、②実習園の保育方針の理解と保育の展開

(3)「子どもの心身の状態や活動の観察」に関する小項目

①一人ひとりの特徴、②日々の様子の違い、③内面の理解、④育ちの理解、⑤視診、⑥一人ひとりの健康状態の確認、⑦一人ひとりの服装、髪、皮膚、爪などの清潔さ、⑧配属クラスの子どもの発達過程、⑨一人ひとりの発達過程、⑩障害のある子どもの発達過程、⑪乳幼児の表情や泣き声の読み取り、⑫その子の良さの発見

(4)「保育士等の動きや実践の観察」に関する小項目

①子どもの保育、②子育て支援、③保育士の1日の業務内容の把握、④障害のある子どもとのかかわり、⑤チーム保育

(5)「保育所の生活の流れや展開の把握」に関する小項目

①登園、②身支度、③遊び、④片付け、⑤集まり、⑥おやつ、⑦食事、⑧衣類の着脱、⑨排泄、⑩午睡、⑪年齢別活動、⑫異年齢活動、⑬降園

(6)「環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解」に関する小項目

①一人ひとりの居場所、②動線に配慮した環境、③体を

十分に動かして遊べる環境、④探索活動が十分にできる環境、⑤興味・関心が高まる魅力的な環境、⑥一人遊びがじっくりとできる環境、⑦友達とのかかわりが生まれる環境、⑧植物・小動物への関心を高める工夫、⑨文字、記号、数量、図形、遠近感、時間に関心をもつ機会の保障、⑩紙芝居や絵本で、文の美しさ、言葉のリズムの面白さ、内容の楽しさを感じる配慮

(7)「入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援」に関する小項目

①登園時の保護者とのかかわり、②降園時の子どもの様子の伝え方、③家庭への連絡（連絡帳等）、④預かり保育・長時間（延長）保育のための雰囲気づくり、⑤一時保育・子育て支援センターの雰囲気づくり、⑥成育歴と成育環境への理解、⑦家庭教育への理解、⑧虐待ネグレクトの理解、⑨ほめ方、叱り方の指導援助

(8)「地域社会との連携」に関する小項目

①地域社会との交流の意義と実践、②幼保小の連携

(9)「保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解」に関する小項目

①保育課程に基づく指導計画の作成、②指導計画の実践、③指導計画の省察・評価、④保育の過程の理解

(10)「作成した指導計画に基づく保育実践と評価」に関する小項目

①保育者（指導担当職員）との相談、了解、②日々の子どもの生活の考慮、③保育方針や保育の流れの考慮、④子どもの興味・関心や季節（気象条件など）の考慮、⑤活動に必要な空間の広さの配慮、⑥教材・教具の置き場所の配慮、⑦予想される危険についての配慮、⑧製作物の展示場所の配慮、⑨環境構成のための時間の確保、⑩集合時間の確保、⑪導入時間の確保、⑫材料・素材の配布時間の確保、⑬まとめの時間の確保、⑭片付けの時間の確保、⑮戸惑うポイントの予測と対策、⑯リハーサルの実施、⑰意欲を高める導入の実施、⑱わかりやすい説明、⑲満足感を得られる活動、⑳計画と実際とのズレの反省

(11)「多様な保育の展開と保育士の業務」に関する小項目

①障害児保育の理解と保育の展開、②事故やけがの発生の防止、③事故やけがの発生時の報告、対応、④おもらしをしたときの配慮、⑤衣類の着脱への働きかけ、⑥手洗いやうがいへの働きかけ、⑦大型遊具等の使用方法、順番の伝え方、⑧ハサミやナイフなどの道具の使い方、⑨スキップ、⑩抱っこ、⑪おんぶ、⑫授乳、⑬おむつ交換、⑭

寝かしつけ、⑮喃語への対応、⑯指差しへの対応

(12)「多様な保育の展開と保育士の職業倫理」に関する小項目

①ふさわしい身だしなみ、②明るく元気な挨拶、③分かりやすい温かな言葉、④気持ちの受け止め、⑤せかす言葉、制止する言葉を不必要に用いない、⑥性差への先入観による固定的な対応をしない、⑦保育者（指導担当職員）の助言、指導の受け止め、⑧保育者（指導担当職員）からの注意や指摘の受け入れ、⑨報告、連絡、相談、⑩指示された仕事の責任ある遂行

(13)「省察・自己評価」に関する小項目

①子どもの様子の記録、②5領域の記録、③養護の記録、④実習目標と反省・評価の記録

(14)「カンファレンス」に関する小項目

①保育者の行動の背景にある意図について、質問し、理解、②自分の意見をもった保育者との話し合い

5 考察

本研究では、保育士養成の保育実習Ⅱにおける経験内容を確認し振り返りを促すための「保育実習Ⅱ経験録（試案）」を検討し作成することを目的としていた。

検討の結果、保育実習Ⅱ経験録（試案）の大項目としては6項目、中項目としては14項目、小項目としては127項目を設定した。これを一覧表として示したものが、表1となる。

保育士養成の保育実習Ⅱにおける経験録としては、他に例が無いことから、この保育実習Ⅱ経験録（試案）を基にして保育実習Ⅱを振り返る一助となるのではと考える。

しかし、現段階ではあくまでも試案である。そのため、項目の中には重複や、過不足があると考えられる。さらに、小項目については、かなり具体的なものから抽象度が高いものまであり、レベルに差があることが課題である。

今後は、実際の保育士養成の保育実習Ⅱにおいての振り返りに使用し、保育実習Ⅱ経験録（試案）の項目についてその妥当性を検証する必要がある。また、実習生、実習現場の指導担当職員、養成校教員の立場など様々な視点から検討していくことも必要になってくる。

表1 保育実習Ⅱにおける経験録（試案）

実習項目			説明	見学	経験
保育所の役割や機能の具体的展開	養護と教育が一体となつて行われる保育	①社会的ルール（きまり）を身につけるような働きかけ			
		②遊びのルール（きまり）を子どもたちが自らつくっていく過程の保障			
		③ケンカを子どもたちで解決できるような配慮			
		④人の立場を考えながら行動する大切さの伝達			
		⑤当番活動などへの意欲の尊重			
		⑥率先して子どもと遊ぶ努力			
		⑦一人ひとりへの声かけ			
		⑧一人ひとりの話の傾聴			
		⑨一人ひとりとの会話			
		⑩自分の意見を言うことのできる雰囲気づくり			
		⑪他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるような雰囲気づくり			
		⑫子どもたちの顔を見ながら弾いたり歌ったりする努力			
		⑬自由に歌ったり踊ったりできるような配慮			
		⑭様々な楽器を楽しめるような工夫			
		⑮表現したものを見たり、話をしたりできるような配慮			
		⑯子どもとのイメージの共有			
		⑰得意な方法で表現できるような働きかけ			
		⑱友達と一緒に表現することの喜びを味わえるような配慮			
観察に基づく保育理解	保育所の社会的役割と責任	①保育所保育指針の理解と保育の展開			
		②実習園の保育方針の理解と保育の展開			
	子どもの心身の状態や活動の観察	①一人ひとりの特徴			
		②日々の様子の違い			
		③内面の理解			
		④育ちの理解			
		⑤視診			
		⑥一人ひとりの健康状態の確認			
		⑦一人ひとりの服装、頭髮、皮膚、爪などの清潔さ			
		⑧配属クラスの子どもの発達過程			
		⑨一人ひとりの発達過程			
		⑩障害のある子どもの発達過程			
		⑪乳幼児の表情や泣き声の読み取り			
		⑫その子の良さの発見			
	実践の観察	①子どもの保育			
		②子育て支援			
		③保育士の1日の業務内容の把握			
		④障害のある子どもとのかかわり			
		⑤チーム保育			
	保育所の生活の流れや展開の把握	①登園			
		②身支度			
		③遊び			
		④片付け			

実習項目			説明	見学	経験
観察に基づく保育理解	展開の把握	⑤集まり			
		⑥おやつ			
		⑦食事			
		⑧衣類の着脱			
		⑨排泄			
		⑩午睡			
		⑪年齢別活動			
		⑫異年齢活動			
		⑬降園			
		①一人ひとりの居場所			
		②動線に配慮した環境			
		③体を十分に動かして遊べる環境			
		④探索活動が十分にできる環境			
子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	環境を通して行う保育・生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解	⑤興味・関心が高まる魅力的な環境			
		⑥一人遊びがじっくりとできる環境			
		⑦友達とのかかわりが生まれる環境			
		⑧植物・小動物への関心を高める工夫			
		⑨文字、記号、数量、図形、遠近感、時間に関心をもつ機会の保障			
		⑩紙芝居や絵本で、文の美しさ、言葉のリズムの面白さ、内容の楽しさを感じる配慮			
	入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援	①登園時の保護者とかかわり			
		②降園時の子どもの様子の伝え方			
		③家庭への連絡（連絡帳等）			
		④預かり保育・長時間（延長）保育のための雰囲気づくり			
		⑤一時保育・子育て支援センターの雰囲気づくり			
		⑥成育歴と成育環境への理解			
		⑦家庭教育への理解			
		⑧虐待ネグレクトの理解			
		⑨ほめ方、叱り方の指導援助			
	地域社会との連携	①地域社会との交流の意義と実践			
		②幼保小の連携			
指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解	①保育課程に基づく指導計画の作成			
		②指導計画の実践			
		③指導計画の省察・評価			
		④保育の過程の理解			
	作成した指導計画に基づく保育実践と評価	①保育者（指導担当職員）との相談、了解			
		②日々の子どもの生活の考慮			
		③保育方針や保育の流れの考慮			
		④子どもの興味・関心や季節（気象条件など）の考慮			
		⑤活動に必要な空間の広さの配慮			
		⑥教材・教具の置き場所の配慮			

実習項目			説明	見学	経験
指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	作成した指導計画に基づく保育実践と評価	⑦予想される危険についての配慮			
		⑧製作物の展示場所の配慮			
		⑨環境構成のための時間の確保			
		⑩集合時間の確保			
		⑪導入時間の確保			
		⑫材料・素材の配布時間の確保			
		⑬まとめの時間の確保			
		⑭片付けの時間の確保			
		⑮戸惑うポイントの予測と対策			
		⑯リハーサルの実施			
	保育士の業務と職業倫理	①障害児保育の理解と保育の展開			
		②事故やけがの発生の防止			
		③事故やけがの発生時の報告、対応			
		④おもらしをしたときの配慮			
		⑤衣類の着脱への働きかけ			
		⑥手洗いやうがいへの働きかけ			
		⑦大型遊具等の使用方法、順番の伝え方			
		⑧ハサミやナイフなどの道具の使い方			
		⑨スキンシップ			
		⑩抱っこ			
自己の課題の明確化	省察・自己評価 カンファレンス	⑪おんぶ			
		⑫授乳			
		⑬おむつ交換			
		⑭寝かしつけ			
		⑮喃語への対応			
		⑯指差しへの対応			
	多様な保育の展開と保育士の職業倫理	①ふさわしい身だしなみ			
		②明るく元気な挨拶			
		③分かりやすい温かな言葉			
		④気持ちの受け止め			
	自己の課題の明確化	⑤せかす言葉、制止する言葉を不必要に用いない			
		⑥性差への先入観による固定的な対応をしない			
		⑦保育者（指導担当職員）の助言、指導の受け止め			
		⑧保育者（指導担当職員）からの注意や指摘の受け入れ			
		⑨報告、連絡、相談			
		⑩指示された仕事の責任ある遂行			

引用・参考文献

- (1) 杉本幸枝・土井英子・中山亜弓 (2006) 「基本的な看護技術の水準」における経験度からみた看護技術演習の検討, 新見公立短期大学紀要第27巻, 57-65.
- (2) 郡司理恵子・安藤悦子・岡田純也・川波公香・浦田秀子・寺崎明美 (2006) 成人看護学における技術教育についての検討—成人看護学実習における看護基本技術の経験状況から—, 保健学研究19(1), 27-35.
- (3) 成田恵美子・渡邊竹美・糠塚亜紀子・篠原ひとみ・兒玉英也 (2007) 母性看護学実習における学生の看護技術経験の認識に関する調査, 秋田大学医学部保健学科紀要15(1), 58-67.
- (4) 荒川千秋・神原裕子・吉野由紀江・佐藤亜月子・杉本龍子・関根龍子 (2009) 基礎看護技術実習における看護技術の経験の実態—平成18年度と平成19年度の看護技術経験録から—, 目白大学健康科学研究第2号, 73-80.
- (5) 井上理恵・石橋郁子・松井紀久子・関好博・西井啓子 (2013) 施設介護実習での到達度に関する研究—経験録の項目をもとにした調査—, 富山短期大学紀要第48巻, 1-15.
- (6) 開仁志 (2014) 保育実習における経験録 (試案), 富山国際大学子ども育成学部紀要第5巻.
- (7) 開仁志 (2014) 幼児教育実習における経験録 (試案), 金沢星稜大学人間科学研究第8巻第1号, 23-28.
- (8) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知 (2013) 「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」.
- (9) 『実習生のための自己評価チェックリスト』編纂委員会 (代表民秋言) (2011) 実習生のための自己評価チェックリスト第2版, 萌文書林.
- (10) 幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書 (2002) 「幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために—」.
- (11) 全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会 「保育者としての資質向上研修俯瞰図」.
- (12) 前掲(6).
- (13) 前掲(8).
- (14) 前掲(8).
- (15) 前掲(8).